

氏名： 山本 秀行 (YAMAMOTO Hideyuki)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 (1972 東京大学)
専門分野： 西洋史学、ドイツ現代史、ヨーロッパ近代社会史
E-mail： rekishi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

ナチズム／第三帝国／植民地主義／ナショナル・アイデンティティ／社会史
Nazism / Third Reich / colonialism / national identity / social history

◆主要業績

・翻訳と解説 シュテファン＝ルートヴィヒ・ホフマン著『市民結社と民主主義 1750—1914』山本秀行訳 (岩波書店、2009 年)

◆研究内容 / Research Pursuits

ここしばらくは、ナチズムとドイツ第三帝国の諸問題を、複数の人種プロジェクトという観点からとらえなおすことを課題としている。今年度はこれと関連して、ドイツ史やヨーロッパの歴史を 16、18 世紀まで遡って、再検討する作業もすすめた。

1. 自発的アソシエーションに注目して、18 世紀から 20 世紀はじめまでの西洋史をとらえなおす作業の一環として、Stefan-Ludwig Hoffmann の『Civil Society』の翻訳し、岩波書店より『市民結社と民主主義』というタイトルで出版した。
2. 「植民地なき国の植民地主義」研究と関連し、ドイツのナショナル・アイデンティティ形成について考えた。その一部は、日本女子大学の史学研究大会で「野蛮なゲルマン人は、どのようにして清潔なドイツ人になったのか」として発表した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育では、学生の文献検索、プレゼンテーションおよびレポート作成の能力育成に力を入れた。外国史論文講読、比較社会史、西洋史講読などの授業がこれにあたる。2年生向けの授業が多かったため、比較歴史学コースの図書室での文献調査やパソコンをもちいての文献検索などの実習を積極的に組み入れた。

西洋政治史料演習では、ヨーロッパ社会と植民地とのかかわりを、人種主義、セクシュアリティ、ナショナル・アイデンティティとのかかわりを考え、文献史料のほかに、ポスターなどの図像資料も用いた。

大学院では、西洋近現代史における「他者」にかかわる言説や、社会文化、政策などについて特論と演習をおこない、西洋中世史や日本近代史の学生などもふくむ院生の論文指導にあたった。また、博士学位論文の審査では、副査として1件の審査を行った。

学外では、東京大学文学部でドイツ近現代史演習を担当し、植民地主義とジェンダーとのかかわり論ずる文献を講読した。

◆研究計画

ナチス・ドイツの人種プロジェクトについては多岐にわたり、現在は複数の系列について、それぞれ史料と文献を収集し、調査している。またナチズム研究と東欧占領政策、植民地研究を統合した研究テーマを発展させることも大きな課題である。

◆メッセージ

お茶大で学ぶ歴史学のいいところは、暗記物ではないことです。見えないものを、見えるようにすること、そのために、いろいろ工夫することが、歴史学の醍醐味のひとつです。

また、西洋史のスタッフには、ドイツ近現代史の僕のほかに、イギリス中世史の新井先生と、フランス近世史の安成先生がおります。お二人とも、いやといえない性格で、面倒見のよさには定評があります。

3人のスタッフと3、4年生全員が参加する卒論指導のゼミは、毎回議論に花が咲き、時間を忘れる楽しいものです。4年生にとってはどうだかわかりませんが、ゼミのあと、近くのレストランで、ワインやビールかこんで、ひと息つくのも恒例となっています。